平成 25 年 2 月 10 日
NPO 法人 四季の森里山研究会
渡部　公、宮下修一
中島進市、木野内明美

植物の冬の過ごし方

冬になると、私達は重ね着やセーターを着たり、コートを着て、暖かくして寒さをしのぎます。植物も冬の寒さや乾燥を乗り切るために様々な工夫をしています。野草、樹木と方法は違いますが、どのような対策をして春を迎える準備をしているか観察してみましょう。

１．冬芽

(1) 種類

・鱗芽(ﾘﾝｶﾞ)　(若葉、花の基となる部分を芽鱗(ｶﾞﾘﾝ)と言われるもので覆われています)
・裸芽(ﾗｶﾞ)　(冬芽がむきだしのままです)
・隠芽(ｲﾝｶﾞ)　(冬芽が樹皮や葉痕(ﾖｳｺﾝ)の中に隠れています)

① 芽鱗(ｶﾞﾘﾝ)の種類

・魚の鱗のようなもの …… ミズキ、コナラ、シラカシ、ケヤキ、サクラ、トチノキ
・毛皮に包まれたようなもの …… コブシ、モクレン
・固い皮のようなもの …… ホウノキ、ネコヤナギ

② 裸芽(ﾗｶﾞ)

アジサイ、マンサク、アカメガシワ、ムラサキシキブ、クサギ､サンショウ

③ 隠芽(ｲﾝｶﾞ)

ネムノキ、ニセアカシア、エゴノキ、プラタナス

２．葉痕(ﾖｳｺﾝ)

葉の落ちたあとに特徴があり、動物の顔に似たものが見られます。

アジサイ、サワグルミ、エノキ、マルバウツギ、カラスザンショウ、ホウノキ
ヤツデ、タラノキ、アカメガシワ

３．ロゼット

葉が地面から放射状に広がる状態をロゼットと言い、八重咲きのバラの花びらのような配列を現す言葉です。一生ロゼットで過ごすものと寒さに耐えるために冬季のみロゼットの形をとるものがあります。前年の終わりに発芽し冬を越して春から成長する越年草にはこの形をとるものが多く、寒さに耐えるため地表に張り付き光を受けられるように広く葉を広げる植物の知恵が感じられます。

・キク科　ヨモギ、ノアザミ、ハルジオン、ヒメジオン、セイヨウタンポポ
　ハハコグサ(ｵｷﾞｮｳ)、コオニタビラコ(ﾎﾄｹﾉｻﾞ)、
・マメ科　シロツメグサ(ｸﾛｰﾊﾞｰ)、カラスノエンドウ
・タデ科　スイバ、ギシギシ
・セリ科　セリ、ミツバ

次回の自然観察会［まもなく春本番！サクラの谷を訪ねて］3 月 10 日（日）午後 1 時～